



豊玉二中だより

令和7年度 第6号

発行日 10月2日(木)

練馬区立豊玉第二中学校

校長 大野 雄一郎

9教科を勉強する意味

校長 大野雄一郎

秋も深まり、日ごとに涼しい日も増えてきました。過ごしやすくなり、学習にスポーツにと意欲的に取り組んでいると思います。10月25日には、2学期最大の行事である文化発表会があり、練習も始まる頃です。今までの成果が出せるように、精一杯取り組むことを願っています。

さて、過ごしやすい季節で「勉学の秋」とも言えますが、学習していて「なぜ9教科を勉強するのだろうか」と思ったことはありませんか。今回はその意味を簡単に書いていきたいと思います。

中学校では、国語、数学、理科、社会、英語、音楽、美術、保健体育、技術・家庭科の9教科を学びます。得意な教科もあれば、どうしても苦手な教科もあるでしょう。しかし、どの教科にも、将来を生き抜くために必要な力が詰まっています。

現代の社会は、単純なことは少なく、様々なことが複雑に絡み合っています。例えば、ニュースで流れる経済の動きを理解するには、社会科の知識だけでなく、数学的な思考力も必要です。環境問題について深く考えるには、理科の知識に加えて、歴史的な背景や倫理観を学ぶ社会科、そして自分の考えを表現する国語の力がどんな場面でも不可欠です。

このように、一つの事柄を多面的に捉えるためには、教科の枠を超えた幅広い知識が土台となります。9教科を学ぶことは、この複雑な世界をより深く、正確に理解するために必要なことなのです。

「総合的な学習の時間」は、平成14年から導入されましたが、9教科で学んだことを総合的に活用して課題を解決する時間です。主体的に取り組むことで、いろいろな力が身に付きます。

私たちは、自分の得意なことや興味のあることを、最初から知っているわけではありません。学校生活を通して、知ることもしばしばあります。例えば、音楽や美術の授業で、思わぬ才能が開花するかもしれません。技術・家庭科で学んだことが、将来の仕事につながるかもしれません。保健体育で、得意な競技が見つかるかもしれません。そして、グローバル化した現代では英語も必須科目と言えるでしょう。

苦手だと思っていた教科も、やってみると新しい発見があるものです。9教科をバランス良く学ぶことは、まだ気づいていない自分自身の可能性を発見するチャンスでもあります。特定の教科にかたよらず、様々な分野に触れることで、将来の選択肢を広げることを期待しています。